浄願寺だより

R6冬-No.20

遠方にお住まいのご門徒さんから、定期的にお寺の近況を聞かせてほしい、とのご要望があり、この度、浄願寺だより としてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめてお知らせしようと思います。夏 冬二回の発行を予定しています。

元旦法話より

令和六年の元旦、朝七時からの法要には早朝にもかかわらず、本堂一杯のご門徒さん方にご参拝をいただきました。全員で今年最初の正信偈のお勤めのあと、ある住職から聞いた話として、このようなお話をさせていただいたのでありました。

ある田舎の大きなお屋敷。何代も続いたお家でしたが、次の代の人は都会に出ておられます。このたび、ご両親ともに亡くなったことを機に、お家を売りに出されることになりました。

週末になると、都会から息子さん夫婦が帰ってこられ、家の中のものを整理して、要らないものをトラックいっぱいに積んで何度も捨てに行かれます。

三カ月ほどかけてようやく家中を片付け終わられ、最後にお寺にご挨拶に来られました。息子さんは、「これまで長らくお世話になりました」と丁寧にお礼を申され、こういうことをおっしゃいました。「父や母が一生かかって集めたものを、結局私が全部捨てることになりました。住職さん、人間が生まれてから死ぬまで、必死になってやっていることは、結局ゴミを作っているだけなんでしょうかね。」

それを聞いて住職は、毎日一生懸命に働いて村のことやお寺のことを支えてくださっていたご両親のことを思い、「そんなことはないですよ」と言おうとしましたが、一方で「本当にそうかもしれないな…」とも思い、結局何も言えず、その息子さんの目を見てうなづくだけでした。。。

そんな法話をさせていただいた半日後に、能登地方で最大震度7の震災が発生します。ニュースの映像に映し出されるのは、瓦礫の山と化した自宅の前で途方に暮れ、「これが本当に現実なのか」と嘆き悲しむ人の姿です。直前まで家族でお正月の卓を囲んでおられたであろうことを思うと、言葉もありません。心が痛みます。ただただ心が痛みます…。

しかし、私たち仏教の教えをいただく者は、痛む心の中でも忘れてはいけないことがあります。それは瓦礫の山を前にして、「これが本当に現実なのか」と嘆き悲しむ人の姿、これは間違いなく私たち自身の姿でもあるということです。生きているものは必ず死んでいかねばなりません。どのような形でかは分かりませんがその時は間違いなくやってきます。愛着のある家も、家族も、地位も、健康も、なすすべもなく手放して行かねばならぬ時がやってきます。諸行無常、生老病死の現実を前に、「これが本当に現実なのか」と茫然と立ちつくす日が私たちにも必ずやってくるということを、忘れてはいけないと仏教は説くのです。

私たちはその時をどのような心で迎えるのでしょうか。やはり「一生かかってゴミばかり作って生きた」と嘆くでしょうか。それとも他に何か別の道があるのでしょうか。ひとつひとつ、手放して行くことを喜びに変えて行くような道が…。

能登地方はかつて真宗王国と呼ばれ、親鸞聖人のご法義が大変盛んに護られてきた地域でもあります。親鸞聖人は、「この世で唯一ゴミにならぬものがここにある」と念仏のみ教えを人々に伝えられました。

被災地の方々が、日本中、世界中の人々のやさしさと、共感と共苦のサポートを受け、一日も早く復興の足掛かりを見出されますことを、また代々に受け継がれたお念仏のみ教えが、心の闇を照らす光明となりますことを切に願わずにはおれません。

令和六年一月　住職

令和六年一月二十五日発行
編集責任者
浄願寺住職　関　秀法

お寺の龍探し

今年は辰年、浄願寺に住む龍を探してみましょう！

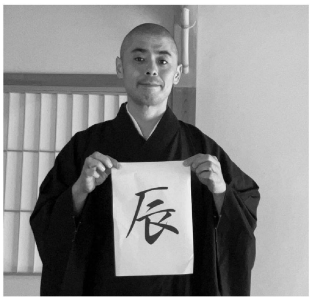
ご本尊の「前卓」にある龍の彫刻。極楽に住む極楽鳥たちを守るように配置されています。

インドで「ナーガ」と呼ばれた蛇が仏教の龍の原型だそうです。修行者を心の乱れから守る守護神です。

香炉の持手と、お経の巻物を立てる「立経台」という仏具の龍。龍神は中国では水の神様であったことから、火を使う場所や、特に燃えやすい仏具にその姿が彫られます。

お寺の掲示板

あぁよかった
日本が平和で
家族が元気で
自分が無事で
本当に
それでよいのだろうか



そうそう、もう一匹浄願寺に住む竜がいました。住職は昭和51年辰年生まれです。ちょっと迫力のない龍ですが。。。

本堂の大屋根を支える梁にも龍の彫刻。鯉が天に登り龍になる姿は、凡夫が仏に転ずる姿の象徴でもあります。

門徒の広場

令和五年度後期

門徒の広場はWEB版ではご覧いただけません。

編集後記

昨年、令和五年は、妻(坊守)にとって受難の年でした。十月ごろから始まったカメムシの大発生。詳しくは話してくれませんが、妻は昔カメムシの臭いに何かトラウマがあるらしく、それ以来、深刻な「カメムシ恐怖症」なのです。毎年1、2匹を見つけてはワーキャー言っていましたが、今年の窓を開ければ何十匹という恐怖の光景に、完全に引きこもってしまいました。その間、お寺の行事にも顔を出せず、大変ご迷惑をおかけしました。最近になってようやくあまり姿を見なくなりましたが、それでも妻はどこに行くにもガムテープを携帯しています。

浄土真宗本願寺派
笹尾山浄願寺
〒620－0925
福知山市上篠尾725
電話0773－22－5280
email jyouganjiweb@gmail.com
http://www.jyouganji.com
住職　関　秀法

変わりゆく形、変わらない心。
ふるさとの杜 墓苑
永代供養墓
furusatonomoriboen.com